

令和3年度圏域の事業実績・収支実績

(北部地区)

河西学区

速野学区

中州学区

守山市地域包括支援センター

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	総合相談支援業務		
基幹からの重点事項	担当地区における地域の相談拠点となるよう広くセンターの周知・啓発を行うとともに、住民に地域の相談窓口として認識してもらえるような取組を進めること。併せて、各学区ごとの高齢者および関係機関等の状況を把握し、円滑なセンター運営のためのネットワーク構築を図ること。また、総合相談フローに基づく緊急度のアセスメントを適切に行い、状況に応じた迅速な対応をめざすこと。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 地域におけるネットワーク構築	担当地域の民生委員・児童委員、生活支援コーディネーター等関係者や市社会福祉協議会のネットワークの構築と整備を行う。	○		
	インフォーマルサービス等の社会資源を把握し、必要時に情報提供を行う。		○	
2 高齢者の実態把握	安否確認等の通報があった場合は、対象者の情報を収集し、基幹と連携し対応する。	○		
	地域より相談があった場合、ケアマネジャーや民生委員と連携し、訪問等により状況把握する。	○		
3 相談窓口機能	相談内容については事業所内で随時共有し、担当者不在であっても速やかに対応できる体制を整える。	○		
	課題整理、方向性を検討した上で適切な機関、制度、サービス等につなげる。また、関係機関との連携を随時行う。	○		
4 専門的な相談支援	困難事例を把握した場合、課題を明確化した上で、対応方法を検討する。また、基幹型包括や関係課職員との連携を積極的に図る。	○		
	年1回地区診断を更新し、地域の特性や課題、高齢者の実態とニーズを把握する。	○		
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	サロンや学区の会館等において出前講座に出向いた際には、地域住民に向けて地域包括支援センターの周知啓発に努めている。専門的な相談支援に関しては、地域包括の視点より地域の傾向を学区の地域づくり会議等において支援者と共有した。次年度は地域の視点も含めた分析を行いたい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	地域の会議に参加する等、ネットワークづくりに努められており、民生委員や地域からの信頼が厚い。今後も、関係機関との連携とともに、基幹や職員同士の情報共有に努めていただきたい。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	権利擁護業務		
基幹からの重点事項	住み慣れた地域で高齢者が尊厳ある暮らしができるよう、権利擁護のための諸制度の活用を支援すること。虐待対応について、緊急性を常に意識し、基幹型と連携するなか早期の終結をめざすこと。また、地域住民や事業所等に対し、虐待の予防につながる取組を実施すること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 高齢者虐待への対応	民生委員・児童委員、地域住民や関係機関、地域の介護支援専門員との連携を図る。高齢者虐待予防にかかる啓発や通報窓口の周知、早期発見につながるよう、講座や勉強会を開催する。	○		
	通報を受理した時は、虐待支援マニュアルに基づき、基幹型包括と連携し、迅速に対応する。また、必要に応じて高齢者虐待支援ネットワークを活用し、高齢者への支援方法を検討する。		○	
2 成年後見制度等の活用促進	権利擁護事業、成年後見制度など高齢者が適時活用できるように関係機関や地域住民へ無料相談会等の情報提供と制度について周知啓発を図る。	○		
	認知症などにより、判断能力の低下が見られる対象者へ成年後見制度の活用を支援する。	○		
3 消費者被害の防止	高齢者世帯への訪問や出前講座時に、消費者被害防止に向けての周知啓発を行う。		○	
	消費者被害の相談時は、速やかに地域の交番や消費生活相談員との連携を図る。		○	
4 その他	地域におけるひきこもり家族の実態把握に努め、必要な機関へつなげる。		○	
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	ケアマネジャーと民生委員向けに、権利擁護や成年後見制度利用についての勉強会を開催し制度利用に関する普及啓発を行った。次年度は気づきの目を増やすことを目的とした勉強会を継続して開催する予定。また、消費者被害防止については、守山市安心安全メールの活用もサロン等において周知啓発に努めたい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	地域課題や自己評価を踏まえて、次年度の企画を行い、勉強会等を実施することができていた。今後も、権利擁護や成年後見制度、消費者被害などの予防・啓発に取り組んでいただきたい。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価:北部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	包括的・継続的ケアマネジメント支援業務		
基幹からの重点事項	地域の高齢者等が本人の能力を活かしながらその人らしい暮らしを継続でき、課題解決のために社会資源を自己決定により活用できるよう、介護支援専門員の活動を支援すること。地域全体のケアマネジメント力の向上に向け、地域の主任介護支援専門員とともに介護支援専門員の資質および対応力の向上に取り組むこと。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 包括的・継続的ケアマネジメント支援	困難事例相談時は、介護支援専門員の抱える課題を整理し、支援の方向性を検討した上、後方支援に努める。	○		
	相談事例より考えられる北部圏域の地域課題の抽出を行う。	○		
2 包括的・継続的ケアマネジメントを行うための環境整備	地域の介護支援専門員の人材育成を行うにあたり、市内各居宅支援事業所の主任介護支援専門員との連携を図る。		○	
3 地域におけるネットワーク構築	地域の介護支援専門員と民生委員・児童委員対象の勉強会を年1回以上行い、包括を含めた関係づくりと地域づくりを考える機会を持つ。	○		
4 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	地域の介護支援専門員と民生委員対象に「地域で支えあうを考える勉強会」を3回開催した。『コロナ禍における支援』と『後見制度・権利擁護について知る』を議題とし、事象が起こった時の対応（ルールの確認）とそれぞれの立場でできることを考える機会となった。次年度も、地域の支援者として気づきの視点を増やすことと介護支援専門員とともに地域づくりについて考える機会を作りたい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	介護支援専門員個々の活動支援だけでなく、地域の支援者間の関係づくりができていた。今後も、引き続き地域ケアシステムの推進のため、関係者間の顔の見える関係づくりに努めていただきたい。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価:北部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	在宅医療・介護連携推進事業		
基幹からの重点事項	地域住民に対して在宅医療や看取りについての情報を広く周知し、在宅医療・介護連携サポートセンターと連携を図るなか、身近な地域で高齢者や家族等が安心して相談できる体制整備を行うこと。出前講座や各種教室等の機会を活用して、エンディングノートの普及啓発・活用促進を図ること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 在宅医療・介護連携事業の周知・啓発	北部地区において在宅療養・看取りについての講座を開催し、エンディングノートの普及啓発・活用促進を行う。	○		
	在宅医療・介護連携サポートセンターと連携し、在宅医療や介護に対して気軽に相談できる窓口周知に努める。		○	
2 在宅医療・介護連携に関する相談支援	退院時等において、在宅医療・介護連携サポートセンターとの連携を図り、本人・家族が不安なく療養できる支援体制を整える。		○	
3 在宅医療・介護連携推進のための多職種連携	病院と地域包括の勉強会に定期的に参加し、実践に活かせるようにシームレスな支援と連携を学ぶ。	○		
4 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	地域の出前講座において相談窓口として在宅医療・介護連携サポートセンターの紹介を行い、活用を勧めた。次年度も地域への周知啓発を行うとともに在宅介護・看取り支援について個別相談があった場合は、在宅医療・介護連携サポートセンターと協働し、支援していきたい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	講座を通じて、地域の在宅療養・看取りについての普及啓発ができていた。今後も、在宅医療・介護連携サポートセンターと連携し、在宅療養・看取りの啓発、療養支援に努めていただきたい。
		○		

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	認知症総合支援事業		
基幹からの重点事項	認知症の人やその介護者等が地域で安心して暮らすことができるよう、正しい知識の普及啓発を図ること。認知症初期集中チームとの連携を図り、認知症の早期発見・早期支援に努めること。また、介護者の負担軽減のための取組を進め、行方不明高齢者等SOSネットワーク事前登録制度について周知啓発を行い、行方不明時の早期対応に努めること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 認知症に関する正しい知識の普及啓発	認知症サポーター養成講座を未実施の地域や北公民館において開催し、認知症の正しい知識の普及啓発を行う。		○	
	守山市キャラバンメイト、カフェボランティア、認知症サポーター等、活動関係者とのネットワークづくりや情報共有を行う。	○		
2 認知症初期集中支援の推進	相談時には認知症初期集中支援チームを活用することにより、早期介入し、必要な医療や適切なサービスにつなぐ等、重症化の予防に努める。		○	
	行方不明高齢者への早急な訪問活動、関係機関との連携による対応や発見後の支援、行方不明高齢者等SOSネットワーク事前登録申請の推進を行う。	○		
3 認知症の人やその家族への支援	出前講座等において「もの忘れ相談プログラム」の周知啓発を行い、認知症の早期発見・早期治療等の支援につなげる。		○	
	地域の身近な居場所や相談場所として、認知症の人や介護者が集えるように、認知症カフェ「ほっこり庵～絆」を北公民館にて毎月開催する。	○		
4 その他	高齢者の運転について地域の住民に向けて講座や勉強会を企画する。また個別の相談時には、運転免許センターの職員と連携し、必要に応じて専門医受診につなげる。		○	
	新型コロナ等感染症の拡大防止の対策のもと、集いの場の開催を行う。	○		
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	免許返納に関しては運転免許センターとの連携を図り、円滑な返納に至った(1件)。北部包括主催の認知症カフェ「ほっこり庵～絆」を感染予防対策を講じて開催し、高齢者の居場所づくりとカフェサポーターの活動拠点となった。また、圏域3学区の各会館に向き『認知症サポーター養成講座』を開催し、地域住民へ認知症の正しい知識の普及啓発に努めた。次年度は親子向けの講座を開催したい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	コロナ感染症下であっても、居場所づくりや、認知症の正しい知識の普及啓発(一部オンライン活用)を行えた。今後も、会館等と連携を図りながら認知症の正しい知識の普及啓発と早期発見・対応に努めていただきたい。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	包括的支援事業	地域ケア会議推進事業		
基幹からの重点事項	地域ケア個別会議を開催し、課題の抽出を行うなか、担当地区の実情に応じた取組、資源開発、政策提言等に努めること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○ より工夫してできている できている 工夫が必要		
1 地域ケア会議の開催	北部包括に相談があった事例を基に、地域の問題点や課題を整理し、基幹包括主催の地域ケア個別会議にあげること で地域課題の解決方法を検討する。	○		
	北部包括主催の地域ケア個別会議を開催し、事例の個別課題と北部圏域における地域課題を整理する。		○	
2 資源開発 および政策提言	地域ケア個別会議の事例を基に、関係機関と共に社会資源と地域づくりについて検討する。		○	
	学区ごとの地域づくりの会議に参加し、地域における取組を知り、地域住民主体の活動の推進を支援する。	○		
3 その他				
圏域の自己評価	事業全体についての総括 圏域包括主催の地域ケア個別会議を開催し、地域住民の抱える地域課題を共有することができた。また、基幹包括主催の地域ケア個別会議において、地域の介護支援専門員と協働事例作成や事前の検討をする中で、介護支援専門員の持つ個別の課題について把握することができた。次年度も継続して北部圏域の課題の積み上げと、各学区ごとの会議においては北部圏域における地域の困りごとの共有を行っていきたい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫してできている	できている	工夫が必要	地域づくりの会議に出席し、地域との意見交換や課題の共有ができていた。今後も、北部包括主催の地域ケア個別会議を積極的に開催し、困難ケースの課題解決および個々の課題の積み上げから地域課題の抽出に努めていただきたい。
		○		

地域包括支援センター事業計画書および評価:北部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	任意事業	家族介護支援事業		
基幹からの重点事項	家族介護者等への支援のため、家族介護者教室等の事業を実施すること。対象者や内容の選定等について、担当地区の地域特性に応じて検討し、多くの住民の参加を促すこと。また、認知症家族介護者訪問等を活用し、介護の実態把握を行い、介護者負担の軽減および虐待防止の取組につなげること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況（自己評価）※いずれかに○ より工夫してできている できている 工夫が必要		
1 家族介護者支援事業	家族介護者教室を北公民館にて5回シリーズで年1回開催する。	○		
	男性介護者の介護による孤立や負担の軽減を図れるよう、家族介護者教室や男性介護者の集い等交流の場の紹介や個別の相談支援を行う。		○	
2 家族介護者訪問	認知症介護をしている家族に対し、訪問等により健康状態や、介護負担について状況を把握する。	○		
	虐待防止の視点より、支援が必要な介護者に対して、介護支援専門員や民生委員・児童委員と連携し、継続した支援を行う。	○		
3 その他	地区診断の分析を基に、北部圏域の特性や課題を抽出し、実態を把握する。	○		
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	北部包括主催の家族介護者教室において、男性介護者の参加を促した。参加者の生の声より、男性介護者の持つ課題を知り介護における精神的介護負担の軽減方法について考える機会となった。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫してできている	できている	工夫が必要	家族介護者教室に介護者の体験談を入れる、認知症家族介護者訪問を積極的に取り組むなど、介護者の実態把握と負担軽減・虐待防止に努められていた。今後は、課題抽出された精神的介護負担の軽減についても取り組んでいきたい。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	介護予防・日常生活支援総合事業	介護予防ケアマネジメント		
基幹からの重点事項	高齢者のフレイル(虚弱)予防のための取組を進め、自費サービス、サービス未導入者などについて、フォーマル、インフォーマルサービスの活用促進を検討し、地域において自立した生活を送ることができるよう支援すること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画	実施状況(自己評価) ※いずれかに○		
		より工夫して できている	できている	工夫が必要
1 自立支援・重度化防止等への取組	地域における体操や活動の場を訪問し、健康状態や活動内容について把握する。		○	
	高齢者が自立した生活を送れるよう、地域における体操や活動の場の情報提供を行い、利用促進を支援する。	○		
2 自費サービス利用者、サービス未導入者等への支援	介護予防教室等の参加者に対し、フレイル予防に向けてアセスメントし、ADLやIADLの改善に向けた必要な運動器の機能向上支援(インフォーマルサービス)につなげる。		○	
3 介護予防ケアマネジメント委託における事業所選定の公平性・中立性の確保	介護予防ケアマネジメント委託における事業所選定において、公平・中立性の確保を行うために、選定の理由を含め、基幹包括支援センターへ年1回報告を行う。	○		
4 その他	地域の介護予防・生活支援サービス事業(リハビリデイサービス等)と連携を図り、地域の介護予防の取り組みを検討する。	○		
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	社会資源である『もりやまエコパーク』や地域の介護予防・生活支援サービス事業所のリハビリ専門職等と連携し、介護予防(状態に応じた運動機能向上)の継続した取り組みにつなげる支援を行った。次年度は介護予防の普及啓発の中で、オーラルフレイル予防と栄養について重点的に取り組みたい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫して できている	できている	工夫が必要	地域にある資源を活用(連携)して介護予防の取組ができていた。今後も、介護予防の推進および閉じこもりなど支援が必要な高齢者の早期発見に取り組んでいただきたい。
	○			

地域包括支援センター事業計画書および評価: 北部地区地域包括支援センター

令和3年度基幹からの重点事業および圏域の事業計画				
地域支援事業	介護予防・日常生活支援総合事業		一般介護予防事業	
基幹からの重点事項	地域での通いの場の状況について把握を行い、住民が自ら参加できるように支援を行うこと。守山百歳体操や守山健康のび体操の活用等、あらゆる機会を利用して介護予防の必要性や取組について啓発を行うとともに、身近な地域における自主グループ活動の継続的な取組を支援すること。			
事業内容	令和3年度 圏域の計画		実施状況（自己評価）※いずれかに○ より工夫してできている できている 工夫が必要	
1 介護予防把握事業	地域に向けて介護予防(閉じこもり・口腔・栄養)の出前講座を行い、地域全体の介護予防の意識向上を図る。		○	
2 介護予防普及啓発事業	守山百歳体操の実施地域の継続に向けた後方支援を行う。			○
	男性高齢者の閉じこもり予防と介護予防の推進を図る。			○
3 地域介護予防活動支援事業	北公民館を拠点とした介護予防教室を実施し、各地域の中で活動の輪が広がるように支援する。また、参加者のフォローアップ(訪問や声掛け)に努める。		○	
	北公民館において、高齢者の居場所・介護予防活動支援の拠点となるような仕組みづくりを検討する。		○	
4 地域リハビリテーション活動支援事業	地域住民に対して、守山百歳体操および守山健康のび体操の普及啓発に努める。		○	
4 その他	サロンや出前講座等でもりやまプラス体操や介護予防手帳の活用について紹介し、住民が自主的に自宅でできる介護予防の取り組みを推進する。		○	
	地域の居場所や集いの場において、新型コロナ等感染拡大防止のための基本的な対策の意識付けを行う。		○	
圏域の自己評価	事業全体についての総括			
	出前講座や北部包括主催の介護予防教室を8回シリーズで開催し、守山百歳体操の普及啓発に努めた。介護予防が継続できる取り組みを『もりやまエコパーク』や介護予防に関わる介護サービス事業所と企画運営した。また、北公民館にて百歳体操の立ち上げ支援につながった。次年度は男性参加者にニーズを聞きとり、継続的な介護予防につながる男性へのアプローチについても検討したい。			
基幹からの評価	重点事業に対する達成状況 ※いずれかに○		コメント	
	より工夫してできている	できている	工夫が必要	地域の実情や住民ニーズに合わせた教室運営、自主グループの立ち上げができていた。男性が集まりやすい場づくりについては、北部包括から問題提起され、全体への取組「イケオジプロジェクト」につながった。今後も、各地域で活動の輪が広がるよう取り組んでいただきたい。
	○			